



平成27年度 キッチン調査関連・研究活動報告書

人が集う食空間・キッチン&ダイニングを考える

神奈川県インテリアコーディネーター協会

2016年2月29日

テーマ

■■人が集う食空間・キッチン&ダイニングを考える■■

目次	ページ
1、はじめに	3
2、研究の目的と流れ	4
3、エンドユーザーアンケート調査と考察	6
4、キッチンメーカーヒアリングと考察	17
5、「人が集う食空間」の実現に向けてのICの役割	19
6、キッチンリフォームプロジェクト	26
7、まとめ	35
8、テーマ実施者紹介 （神奈川インテリアコーディネーター協会について）	36
添付資料	
①エンドユーザー向けアンケート	1
②キッチンメーカーヒアリング	8
③料理教室報告	20

1. はじめに

時代とともに消費者の生活は変化し、多様化しています。少子高齢化、女性の社会進出等に伴い家族の生活、『食』『住』の有り方も変化し、食事の回数や意味も変化してきています。

そんな中で私たちは、家族や友人が自宅で料理を愉しんで創り、料理を囲んで人が集い食事をするという、コミュニケーションの場としてのキッチン・ダイニング空間に注目しました。

キッチンは調理の場だけではなくコミュニケーションの場として住まいの中心として重視されてきています。またキッチンは閉ざされた空間ではなくダイニング、リビング、アウトドアリビングとつながるオープンな空間として使用されることも増えてきています。そのような中で、インテリアコーディネーターとしてより充実した食空間を提案する為に、消費者の食空間に対する意識を知ることが必要であると考えました。

消費者のライフスタイルや食空間に何を求めるかというところに重点をおき、キッチン、ダイニング、リビングへのつながりも含めた食空間を提案することを目的に調査研究しリフォームプランを作成しました。

この調査研究が、インテリアコーディネーターのより充実した提案や商品開発の参考になれば幸いです。

平成28年3月

神奈川インテリアコーディネーター協会

高橋奈津子・金澤香・柏原雪子・山本直子

呉服啓美・宮本万紀子・鈴木久美子

齋田圭子・黒須多恵子・岡部睦子・林美和子

この調査・研究は、公益社団法人インテリア産業協会の助成金を受けて行いました。

2.研究の目的と流れ

今回の調査・研究では、キッチン・ダイニングに求められるエンドユーザーのニーズを、ライフスタイルや食空間に何を求めるかというところに重点をおいて調査研究し、人が集うをテーマにキッチン、ダイニング、アウトドアへのつながりも含めた食空間を提案することを目的としている。人が集う食空間は時代とともに、又ライフステージの変化により、変わっていく。そんな中で夫婦やその友人が集う、小さな子供たちを含め家族が集う、趣味の仲間が集う、近所のコミュニティーが集うなどさまざまな集い方に対応出来るキッチンを提案する。アンケート調査・ショールーム見学会に参加したユーザーの中に、実際にリフォームを希望している方がおり、この方のキッチンに対する思い、集いに対する要望から今回のモデルケースとし集うキッチンの集大成をリフォームプランとして提案することになった。

エンドユーザーのアンケート調査

アンケートの調査に際して、お料理教室を開催して、参加者にアンケートをお願いした。キッチンの見学会を開催した。



アンケート調査の考察



キッチンメーカーヒアリング

ウッドワン、リクシル、クリナップ、クッチーナ トーヨーキッチンにユーザーの要望や、それに伴う商品開発のコンセプト、これから提案していきたいキッチンについてヒアリングを行った。



ヒアリングの考察



リフォーム希望者からのヒアリング

アンケート、見学会参加者の中にご自宅のリフォームを希望されている方がおり、ヒアリングからこの方の要望が今回私達が提案する「人が集うキッチン」というコンセプトと重なる所が多く、ケーススタディーとし「人が集うキッチンリフォームプラン」を提案することとした。



集えるキッチンについての考察



プランニング

キッチン、ダイニング、アウトドアを含めた、いろいろな集いの場面に
対応するキッチンプランを提案した。

3.エンドユーザーのアンケート調査と考察

今回の調査・研究ではキッチン・ダイニングに求められるエンドユーザーのニーズを把握するためにアンケート調査を行った。

(1)食空間（キッチン&ダイニング）に関するアンケート

調査目的 集うをテーマに食空間を提案するためユーザーのニーズを把握する。

調査方法 料理教室、勉強会を開催し参加者等にアンケートを募った。

調査期間 2015年9月8日～30日

回収数 92

(2)アンケート内容

アンケート内容は、別添資料参照。

(別添資料1)

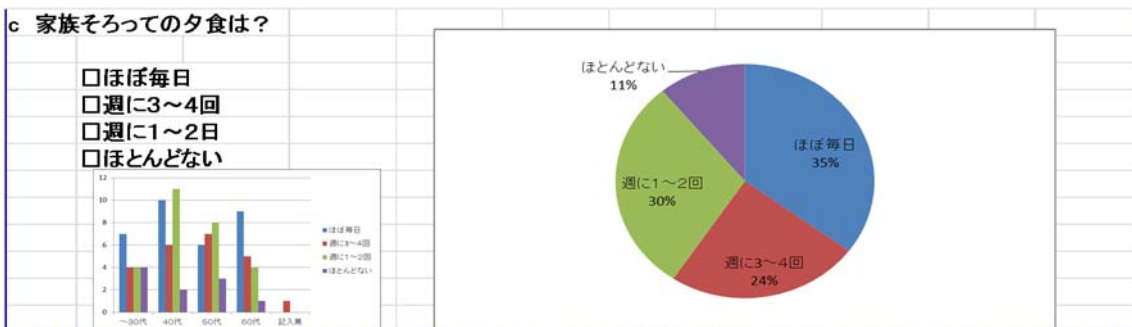
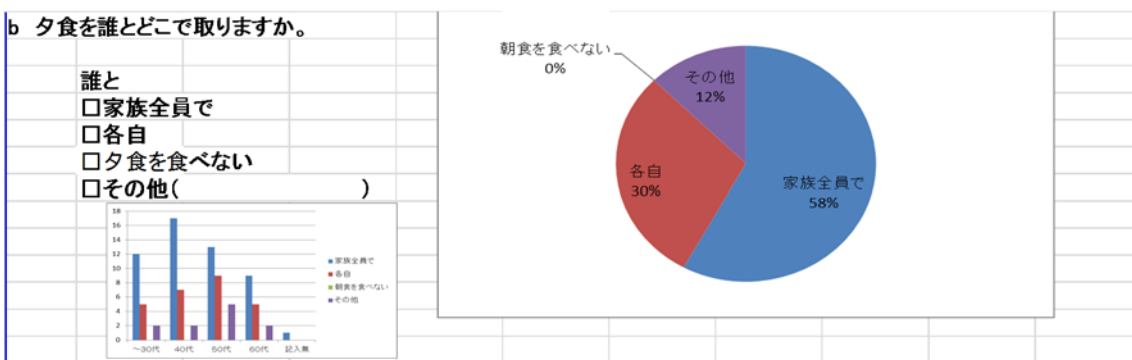
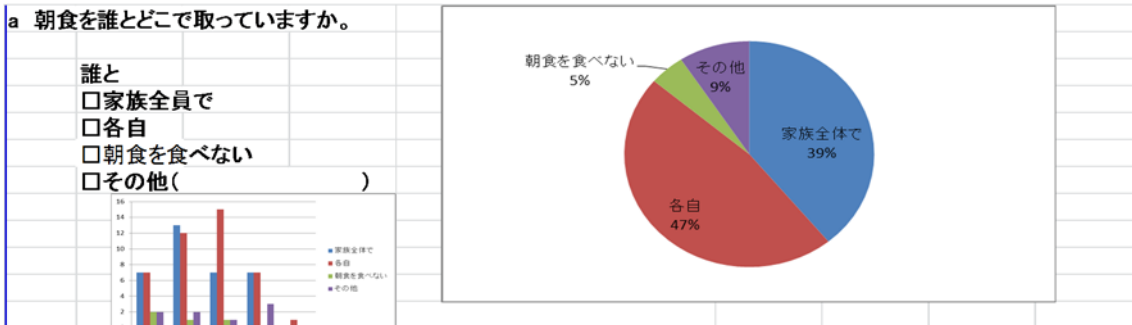
(3)アンケート分析および考察

①家族の食事のあり方

調査項目 a、b より、半数以上の方が夕食を家族そろって囲んでいる。

朝食・夕食ともに75%以上の方はダイニング・キッチンにて取っている。

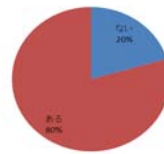
忙しい現代においても家族そろっての食事の習慣を持っている人は多いことがわかる。



②人の招き方

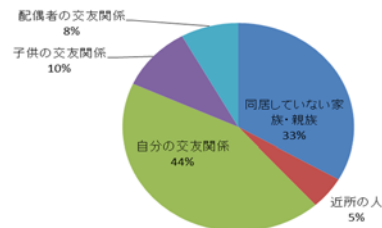
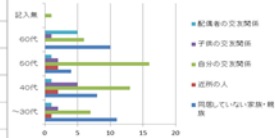
調査項目 d より、自宅で家族以外の人と食事をする機会のある人は 70%以上を超えている。また、40%以上が家族以外の近所や交友関係の人を招いていると答えている。招き入れる場所はリビングが 58%、ダイニングルームも 28%となっており、頻度は月に一回から半年に一回程度となっている。

e 人を自宅に招く機会がありますか。

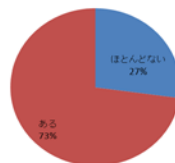


・あると答えた方にお聞きします。それはどのような間柄の方ですか。

- 同居していない家族・親族
- 近所の人
- 自分の交友関係
- 子供の交友関係
- 配偶者の交友関係

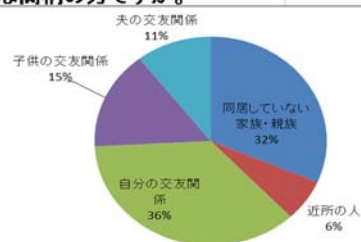


d 自宅で同居されている家族以外の方と食事をされる機会がありますか。



・あると答えた方にお聞きします。それはどのような間柄の方ですか。

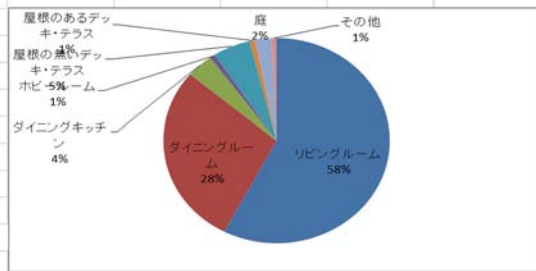
- 同居していない家族・親族
- 近所の人
- 自分の交友関係
- 子供の交友関係
- 夫の交友関係



上記の点からも、家族以外の人との「食事の機会」と「招く」の数字がほぼ一緒であること、「人と時間を過ごす」ことと「食事という行為」は深くかかわりあっていることが分かる。(調査項目 e、f)
庭に招く、という人も 2%いる。準備が楽ということもあってかバーベキューやガーデンパーティも人を招く方法としてポピュラーなようだ。

f 人を招くとき、どの部屋に招きますか。

- リビングルーム
- ダイニングルーム
- ダイニングキッチン
- ホビールーム
- 屋根のないデッキ・テラス
- 屋根のあるデッキ・テラス
- 庭
- その他()



・庭に招くと答えた方にお聞きます。どんなおもてなしをしますか？

- バーベキュー
- ガーデンパーティー料理
- その他()

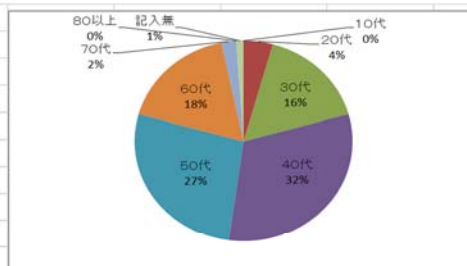


③料理をする人

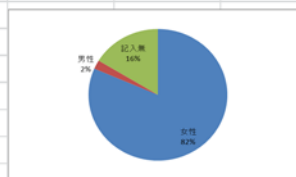
今回のアンケートの回答者の 8 割は女性であったが、専業主婦の割合は 40% 未満であった。

● あなたについてお聞かせください

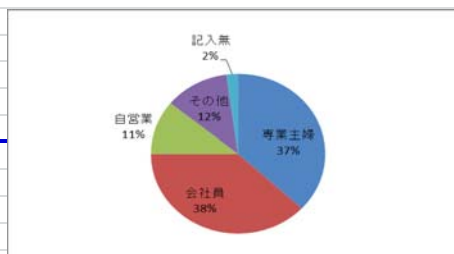
- ・年齢
- 10代
 - 20代
 - 30代
 - 40代
 - 50代
 - 60代
 - 70代
 - 80代以上



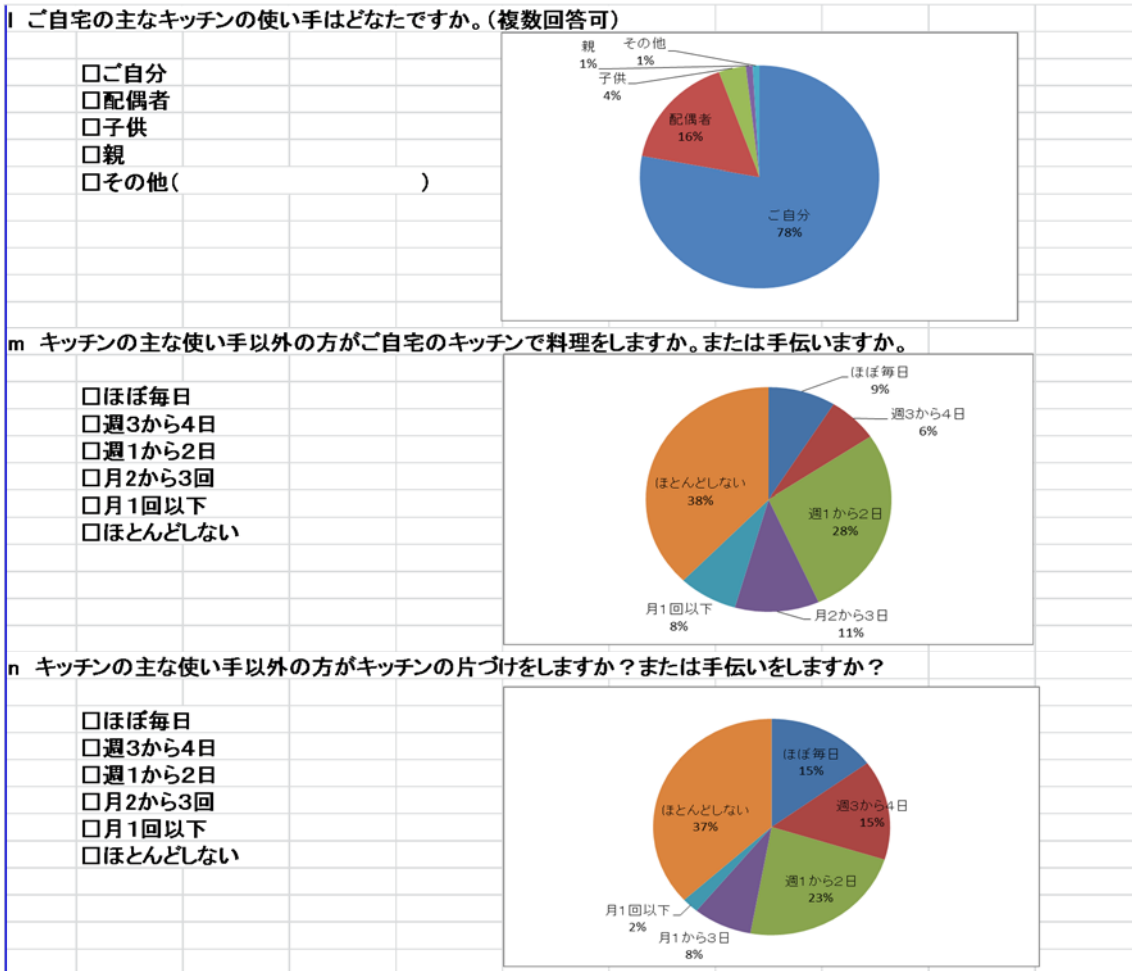
- ・性別
- 女性
 - 男性



- ・職業
- 専業主婦
 - 会社員
 - 自営業
 - その他()

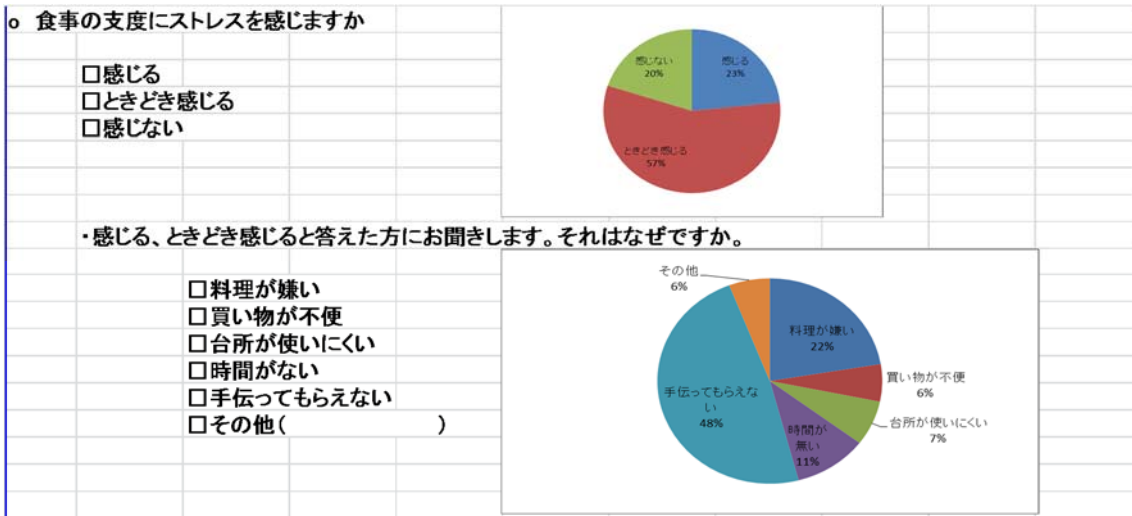


仕事を持つ人が多い中、キッチンで料理・後片付けなどの中心になっているのは自分自身だと答える人が多い一方、配偶者もキッチンに立っているという回答も15%以上見られた。



食事の支度にストレスを感じている人は50%以上、その理由の半数近くが手伝ってもらえないから、というものであった。

主婦が一人だけではなくほかの家族が食事の支度に関わるようになってきており、それが社会的に受け入れられ、望まれているということもいえるのではないか。



一方家事に対する意識であるが、できれば惣菜など買わずに自分で料理を作りたいと答える人は50%以上を超え、この数値は仕事の有無に左右されていない。家事を効率化するための工夫の内容を見ても、料理を作ってこまめに冷凍しておく、前夜に下ごしらえしておく、など手を掛けている様子が見える。主婦が出かけるときのつくり置きメニューはカレーシチューおでんなどお鍋で作り置き温めやすいものが圧倒的であった。

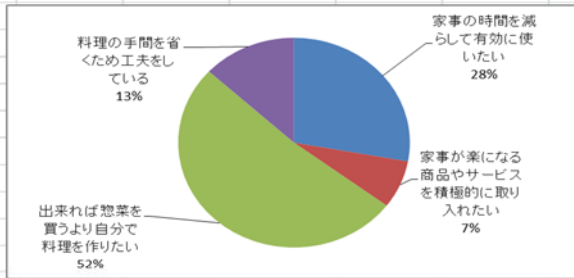
q あなたは家事、主に料理についてどのような考えをお持ちですか？複数回答可。

家事の時間を減らして有効に使いたい

家事が楽になる商品やサービスを積極的に取り入れたい。何か教えて下さい。()

出来れば市販の惣菜を買うより自分で料理を作りたい

料理の手間を省くために工夫をしている。どんな工夫か教えて下さい。()



- ・週末の買出し、仕込み
- ・野菜等冷凍しておく
- ・お料理を多めに作って小まめに冷凍しておきさまざまな料理に使っている
- ・玉ねぎをミジン切にし冷凍庫に入れる
- ・カット済み野菜
- ・作り置きできるものはする
- ・朝食の味噌汁は前夜に用意して朝は火をつけるだけ
- ・子供の成長に大切なもの
- ・前夜下ごしらえしておく、ごはんの炊飯予約
- ・ネギ、油揚げベーコン、レモンゆず等使えるようにして冷凍しておく
- ・リメイク
- ・圧力鍋、素
- ・前日にほぼ準備する

r 主婦が出かける時に作り置きするメニューは何ですか？

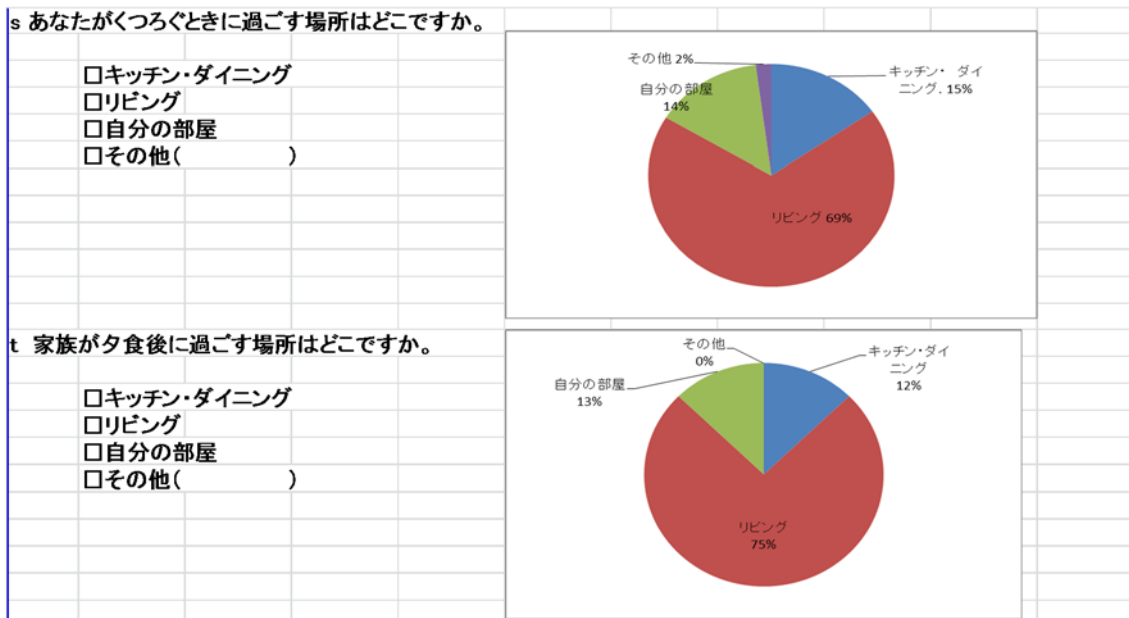
メニュー	数
1 カレー	48
2 シチュー	20
3 煮物	9
4 おでん	6
5 スープ類	3
6 ちらし寿司、	3

その他

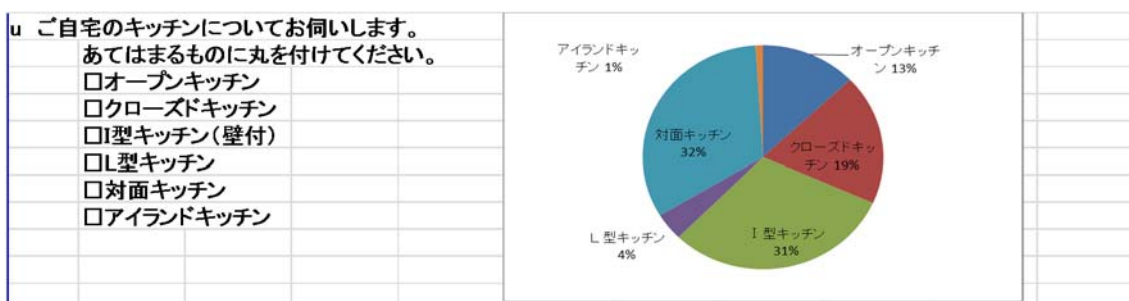
- ・ハッシュドビーフ
- ・ローストビーフ
- ・オムライス
- ・ポトフ
- ・肉じゃが
- ・牛丼
- ・焼きそば
- ・ミートソース
- ・中華丼の具
- ・マリネ
- ・サラダ
- ・鍋料理
- ・豆料理
- ・チンで食べられるもの

④キッチンの現状

「くつろぐ空間」としてはリビングが圧倒的であるがダイニングと答えた人も10%以上を超えている。

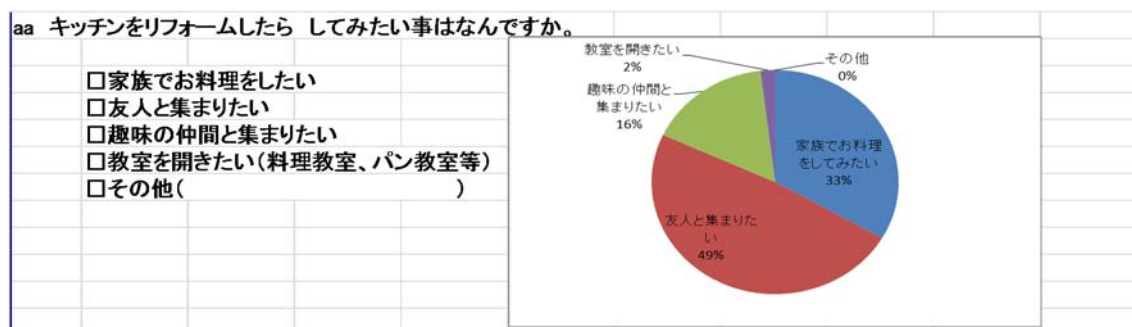
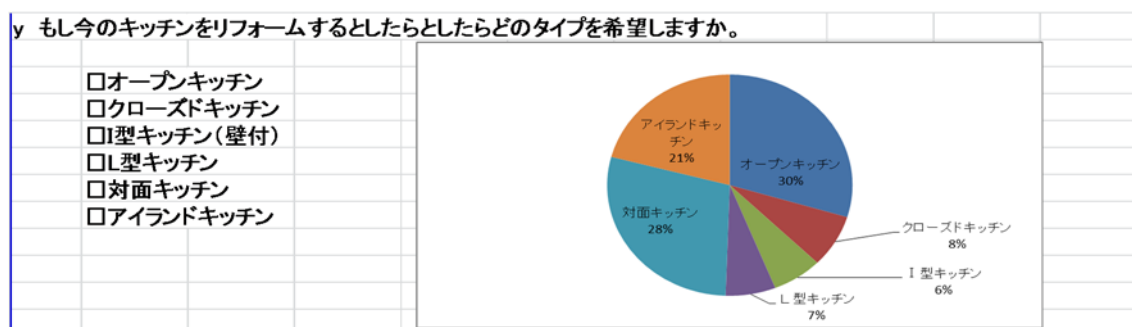


キッチンの形態はオープンキッチンと対面キッチンをあわせて45%、クローズとI型を合わせて50%、となっている（質問u・円u）。



⑤リフォームへの期待

もしもリフォームするならどのタイプを望むかという質問に対して（質問 y・円 y）は、オープン、アイランド、対面キッチンを含わせて 75%以上を越えている。一方クローズ型・I型を望む人は14%にとどまっている。（質問 y）そしてキッチンを見たらしてみたいこと（質問 aa）に対し、33%が家族でお料理をしてみたい、49%が友人と集まりたいと答えている。オープンなタイプのキッチンにして家族や友人と集みたいと感じている人が多いということが見て取れる。



キッチンについて困っているところは収納、広さ、作業性と機能を求める声が多く、リフォームをする場合の優先順位も第一位「収納」第二位「家事が楽」と機能を求める声が多い。キッチンリフォームへの動機で重視すべきであり、解決すべきことであることは間違いない。一方、第三位が「家族団らん」第四位に「家族や友人と一緒に料理を楽しみたい」など、「集えるキッチン」を求める声も見受けられる。

リフォームに望む優先順位については次ページにまとめたので参照されたい。

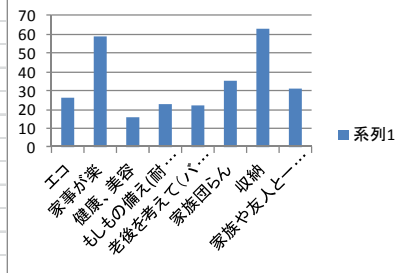
⑥アンケートを踏まえて

キッチンに求められてきた「作業のしやすさ」「収納」といった「機能性」のに加えて、人を招くことや集うことと『食空間』とが深く関わり不可分であることも、エンドユーザーが気づき始めている。私たちはそのニーズを受け止め、さらに一歩進んだ「キッチン・ダイニング空間」の提案をしていきたいと考える。

リフォームに望む優先順位

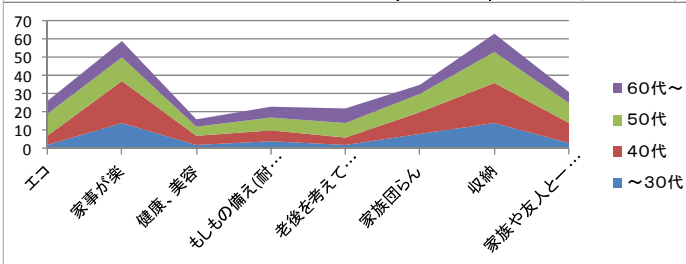
●全体

エコ	26
家事が楽	59
健康、美容	16
もしもの備え(耐震、火事etc.)	23
老後を考えて(バリアフリー、手すりetc.)	22
家族団らん	35
収納	63
家族や友人と一緒に料理をし食事を楽しむ	31



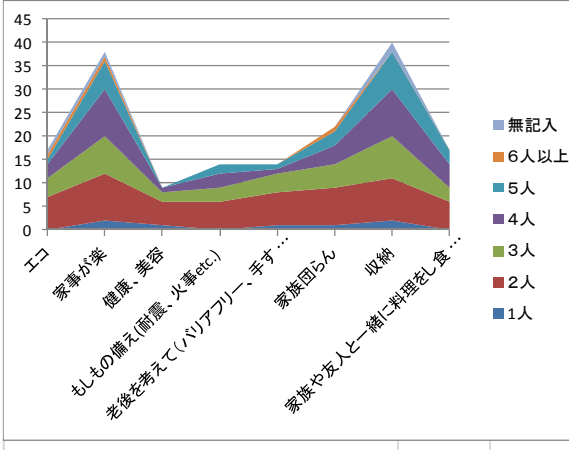
●年代別

	～30代	40代	50代	60代～	記入無
エコ	2	5	12	7	0
家事が楽	14	23	13	9	0
健康、美容	2	5	5	4	0
もしもの備え(耐震、火事etc.)	4	6	7	6	0
老後を考えて(バリアフリー、手すりetc.)	2	4	8	8	0
家族団らん	8	12	10	5	0
収納	14	22	17	10	0
家族や友人と一緒に料理をし食事を楽しむ	3	11	11	6	0



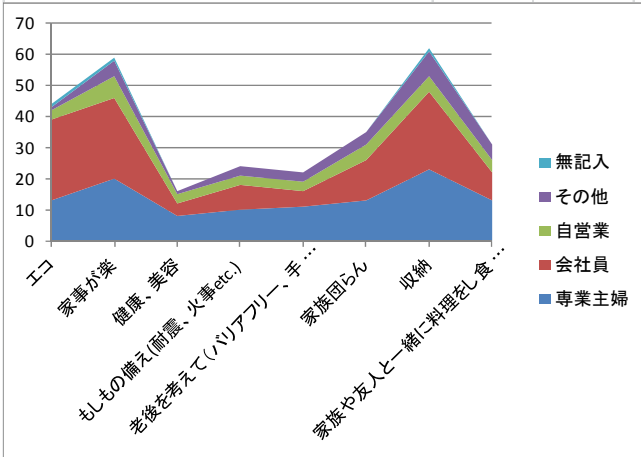
●家族の人数別

	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	無記入
エコ	0	7	4	3	1	1	1
家事が楽	2	10	8	10	6	1	1
健康、美容	1	5	2	1	0	0	0
もしもの備え(耐震、火事etc.)	0	6	3	3	2	0	0
老後を考えて(バリアフリー、手すりetc.)	1	7	4	1	1	0	0
家族団らん	1	8	5	4	3	1	0
収納	2	9	9	10	8	0	2
家族や友人と一緒に料理をし食事を楽しむ	0	6	3	5	3	0	0



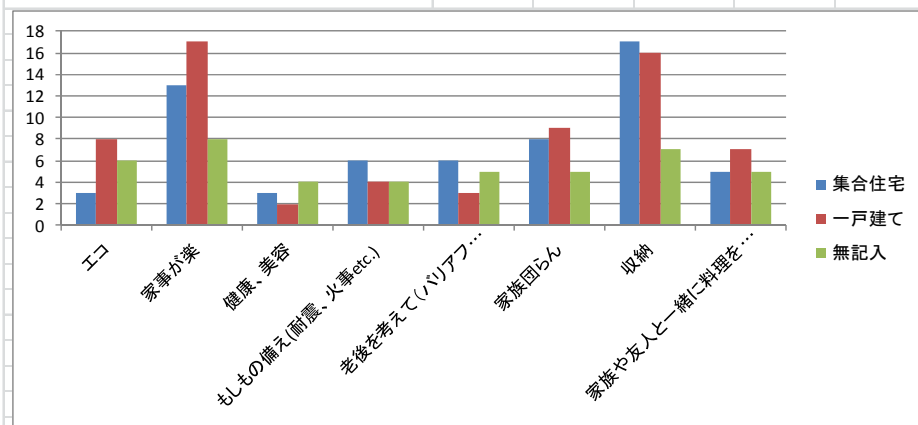
●職業別

	専業主婦	会社員	自営業	その他	無記入
エコ	13	26	3	1	1
家事が楽	20	26	7	5	1
健康、美容	8	4	3	1	0
もしもの備え(耐震、火事etc.)	10	8	3	3	0
老後を考えて(バリアフリー、手すりetc.)	11	5	3	3	0
家族団らん	13	13	5	4	0
収納	23	25	5	8	1
家族や友人と一緒に料理をし食事を楽しむ	13	9	4	5	0



●住宅種類別

	集合住宅	一戸建て	無記入
エコ	3	8	6
家事が楽	13	17	8
健康、美容	3	2	4
もしもの備え(耐震、火事etc.)	6	4	4
老後を考えて(バリアフリー、手すりetc.)	6	3	5
家族団らん	8	9	5
収納	17	16	7
家族や友人と一緒に料理をし食事を楽しむ	5	7	5



4.キッチンメーカーヒアリングと考察

(1)キッチンメーカーヒアリング内容

今回の研究では下記のキッチンメーカー5社にヒアリングを行った。

ウッドワン

リクシル

クリナップ

クチーナ

トーヨーキッチン

質問項目は下記のとおりである。

①御社で人気のキッチンはなんですか？

②どんなコンセプトで開発していますか？

またそのコンセプトになったのはなぜですか？

③お客様の要望で多いのはなんですか？

④御社で今最も提案したいキッチンはなんですか？

⑤KICA-KITCHEN 研究会では、「集うキッチン・ダイニング」をテーマに研究しています。御社では「集うキッチン・ダイニング」に対しての提案はございますか？

⑥食空間をどうとらえていますか？

(2)ヒアリング結果

ヒアリング結果は、以下の通りである。

(別添資料2)

(3)キッチンメーカーヒアリングの考察

各キッチンメーカーの特徴を見ると、

「システムキッチン」という範疇の中で技術開発を続け、品質・機能性・バリエーションの多様化を目指したリクシル・クリナップ、建材メーカーの特性を

生かして木材、とりわけ無垢材扉という独自の境地を開拓したウッドワン、フルオーダーを基本として目指す比較的高価格帯商品中心のクチーナ、トーヨーキッチンと各社の得意分野はそれぞれ特徴があり、常に新しいものへの追求がなされている。各社によるヒアリングの結果は別添のとおりであるので参照されたい。

そういった特徴の違いを踏まえつつ、私たちはここで各社が共通して食空間を住まいの中心、生活の中心であるとその重要性について回答している点に注目したい。

クチーナでは「生活も心も豊かになる、生活の幅を広げることができる空間」、リクシルでは「家族のコミュニケーションの場」そして「創造（調理）」「共有（食事）」「賛辞（感謝）」の空間という表現にて、クリナップは「笑顔の絶えない家族形成に貢献できる」場として、それぞれ食空間の果たしうる可能性を語っている。

また、キッチンに「くつろぎ、いやし」という概念をもたらしたウッドワンにも注目したい。「ほっとやすらげる、疲れを癒すキッチンという」切り口で語られているが、「効率よく家事がこなせる」という価値に加えて、そこで過ごす時間が癒されるものである、または見て触れてやすらげる、といった価値が求められていることに注目した。

トーヨーキッチンでは「シンク二つ、コンロ二つ」という複数世帯、または世代の交流をキッチンという形で表現し、製品が生活スタイルの提案になっている。キッチンをエンターテイメント空間と表現するなど、新しい価値観の創造に意欲的であり、提案に満ちている。

つまり各社が、キッチン・ダイニング空間の提案が「新しい暮らし方」「生活の更なる豊かさ」への提案になりうるということに注目しており、そういった提案をそれぞれの得意分野を生かす形で行っているということが理解できる。

ヒアリングを通じ、キッチン・ダイニング空間の役割が広がり、生活における重要性が高まっていくという問題意識、そしてキッチンとダイニング、そしてリビング、ひいては家全体との連続性や関係性に注目し、その可能性を商品の提案に反映させようとしている点等が私たちの研究テーマと共通していることを再確認した。

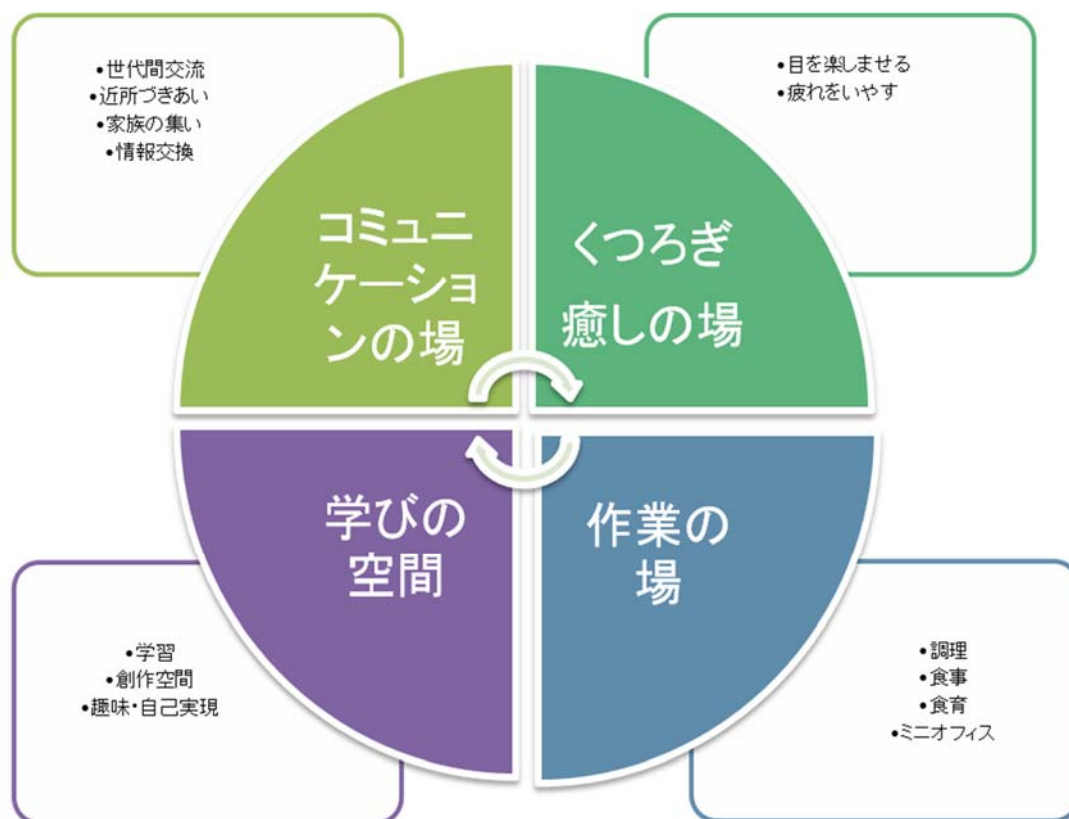
5 「人が集うキッチン・ダイニング空間」の実現に向けてのICの役割

エンドユーザーへのアンケートを通じて、キッチンが単なる作業の場から、人の集いの中心に位置する存在に役割を広げつつあり、そういった期待を担っていることが分かった。

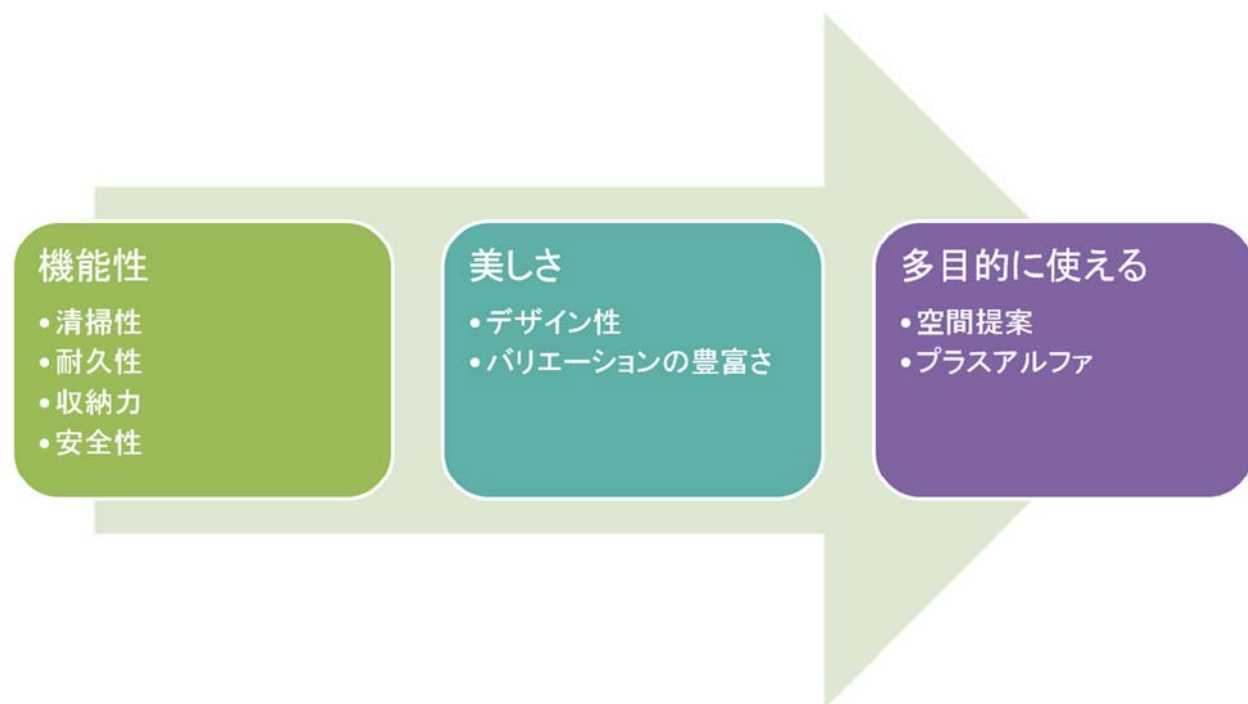
キッチンメーカーもメーカーそれぞれの特徴を活かし、キッチン・ダイニング空間の提案を通じ、「新しい暮らし方」「生活の更なる豊かさ」への提案を始めている。ICはエンドユーザーの一步先のニーズをとらえ、メーカーから発信された情報をも踏まえ、個々の現場の特性をも活かしながら、空間のコーディネート提案をすることが求められている。

キッチン・ダイニング空間の可能性、求められるものを下図にまとめた。

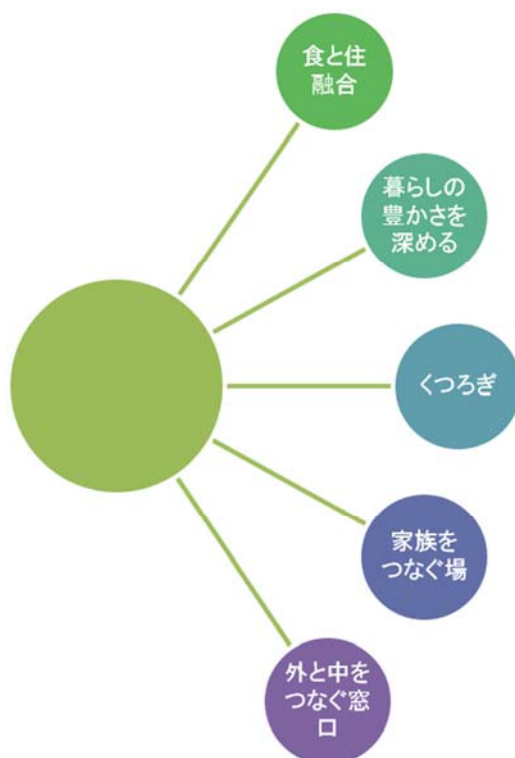
キッチン・ダイニングの役割は広がっている



キッチンに求められる要素



食空間の役割を超えて



キッチン・ダイニングはもはや食のための空間という限定的役割ではなく、コミュニケーションの場となり、くつろぎや癒しの空間となり、学習や作業といったアクティビティの場にもなる総合的な役割を持つようになりつつある。

そしてキッチン・ダイニングは家の中、家族をつなぐのみならず、家の外と内をつなぐ、外からの「人・もの・情報」の窓口にもなりつつある。つまり、キッチン空間単独でとらえるだけでなく、周囲との関係や外部との関係等も考慮に入れるプラン作りが求められる。「空間」「暮らし」を提案するICの役割が大きいといえる。

では、具体的に「集えるキッチン・ダイニング空間」を実現するにはどのような点について考慮してプランを進めればいいのか。

次にメンバーのICが手掛けた提案事例を挙げ、考察を通じて考慮すべきポイントを抽出する。

集うキッチン 事例 1 新築の事例…集える大型キッチン・ダイニング空間

アイランドキッチン+バックセットのキッチン空間と大きなダイニングテーブルをつなげた大空間で家族が集い、料理を作る時も互いのコミュニケーションがとれ、時には親族が数十人単位で集まるためのキッチンである。新築(建て替え)で、もともとのキッチンは、北側の広い台所で、食事は隣のお茶の間でっており親族などが大勢集まる機会が一年に何度かあって、十畳二間続きの和室を使用していた。



アイランドキッチンは、キッチンのセンターに配置され、両側からみんなで調理ができる。下ごしらえ、調理、配膳、片付けなどを何人かで同時にこなし、少人数の食事はその場で作りながら食べる、そんな気安さが楽しい配置である。日常の生活では、ダイニングチェアを6客で使用するが、スタッキングチェアを用意して納戸においておき、時には大勢でダイニングテーブルを囲む。

キッチンの奥側は掃き出しサッシとなっており、アウトドアダイニングを計画中である。広い庭と木々に囲まれた人が集うアウトドアダイニングである。キッチン～ダイニング～アウトドアダイニングへと連続した空間をつくることで、さらに豊かな空間となる。

- 要素 1 大勢で囲める配置 広さ センターキッチンと呼べる楽しい配置
- 要素 2 十分な収納量
- 要素 3 スタッキングチェアを確保するなど状況に応じた家具の準備
- 要素 4 キッチンとダイニング、アウトドアとの連続性

集うキッチン 事例2 リフォーム事例…お教室もできるダブルキッチン

セミオープンの対面キッチンではあったが、お料理をしているときはどうしても閉鎖的な空間になってしまうのが悩みであった。料理上手な奥様は、近所の方やご友人を招いて趣味を兼ねた料理教室、その後は集まったメンバーで試食会をしたいという夢もあった。



というわけでリフォーム後は、数人で同時に切る&炒める&洗うなどの作業をしつつコミュニケーションをとりやすい空間にする必要があった。



そこで思い切ってダイニングとの間仕切壁を撤去し、キッチンの真ん中に作業台とシンクを設置した。通常は壁付けのI型キッチンのみを使用しているが、作業スペースが増えたのでパン作りやお餅作りなど、日常でもメニューの幅が広がっているとのこと。食事スペースとし作業台の手前には大きなダイニングセットが設置されている。

要素5 開放的な空間によるコミュニケーションキッチン

要素6 十分な設備、大きい作業台、大きなテーブル

集うキッチン 事例3 リフォーム事例…狭小住宅の動線を整えた例

リフォームの事例である。もともと2階にあったキッチンを1階に移設。プライベートスペースから独立させた。以前のキッチンは小さいL型キッチンであり一人で使用するのがやっとだったが、リフォーム後は家族や友人と集えるようになった。人を招いたり、子供たちが友達を呼んで料理をしたりすることも増えた。空間が狭いため対面キッチンの設置は難しかったが、I型キッチンに大きなテーブルを組み合わせた。階段下を利用したパントリーを設け、ごみや家電類など見せたくないものをしまえるようにした。

大きいテーブルなので子供が宿題をしたり作業をしたりもできる。

キッチンの隣に大きな掃き出し窓があり、庭とのアクセスが良くなり、狭いながらも視線が開け、居住性がよくなった。施主の好みで木製キッチンを採用し、建具などと素材をそろえ、キッチンを家具の一部のように見せ空間に溶け込ませた。広い空間でなくても工夫次第で集えるキッチンを実現することができる。



- 要素7 見せたくないものをしまえるスペースを確保
- 要素8 使って楽しい素材等で生活感を消し施主の好みも反映
- 要素9 生活動線を配慮したキッチン・ダイニングの配置

三つの事例を通じ、考察した内容を下記の指標にまとめた。各要素において配慮されていればいるほどより「集い」やすいキッチン・ダイニング空間が実現できるといえるのではないか。

① 空間づくり

配 置…ゆとり、ある程度の広さがあるか

プラン…複数人数で利用できるか、囲みやすい形状か

② 機能

清掃性…メンテナンスや掃除が楽か

ごみの保管場所など確保しているか

収納性…十分な容量の確保はなされたか、

使うものが使うところにあるといった、さっしまえる、

取り出せる工夫がなされているか

設 備…行いたいアクティビティに合った設備やスペースが確保

されているか

③ 動線

外部からのアクセス…人を招くときにスムーズか

庭や続きの空間との関係…周囲の空間との関係は良いか

プライベートスペースとの区別…寝室、浴室、洗濯動線などとの関係が整理されているか

④ インテリア性

照 明…明るさ、光の色など心地よい照明になっているか

家 具…テーブル、いすなどの使い勝手はどうか

色 彩…心地よいものとなっているか

個 性…住まう人の好みが反映されたものとなっているか

居心地…視線の先にあるものは快適か

素 材…住まう人が快適と思えるものとなっているか

今回の研究活動を通じて、実際に今のキッチン・ダイニング空間をリフォームしたいという顧客に出会うことができた。IC としてどのようなとりくみをすべきか、どのような提案になったのか、ヒアリングから現場調査、提案までの過程をケーススタディとして下記にまとめる。この提案は顧客に大変喜ばれ、具体的に実現の運びとなった。次章で紹介したい。

6. キッチンリフォームプロジェクト

私たちICは、顧客の一番身近な相談相手として、現在の暮らしにおける潜在的な不満や今後への期待をとらえつつ、キッチン・ダイニング空間の可能性をエンドユーザーに伝え、メーカー、職人等の協力を得ながら具体的な提案を行い、実現に向けていく役割が求められる。それには顧客の持つ個々の諸事情、住宅の状況、予算等を踏まえて最適な提案をする必要がある。

今回の研究活動の過程で実際に今のキッチン・ダイニング空間をリフォームし、集えるキッチンにしたいという顧客に出会うことができた。どうしたら希望が実現できるのか。ヒアリングから現場調査、提案をまとめる過程をケーススタディとして下記にまとめる。

この提案は顧客に大変喜ばれ、具体的に実現の運びとなった。

①O様のリフォームへの夢

「息子がいつの日かガールフレンドを連れてきた時に、みんなで集えるスペースを作りたいんです。一緒に料理をしたり、みんなの顔が見えるところでデザートを盛付けたり、コーヒーを淹れたりできたら素敵でしょ！みんなで囲むダイニングテーブルに美味しいお酒やお料理を並べ、みんなの顔が笑顔に変わるのキッチンからも見たいんです。そして食後の団らんも親交を深める場にしたいんです。」

O様宅リフォームのコンセプト

「みんなの笑顔があふれる、複数で料理ができる、食を楽しめる、くつろげる、親交を深める、集えるキッチン」

②O様邸の現状

1、環境

O様邸は横浜市戸塚区の自然豊かな環境に立地している。梨園、栗林、竹林などに囲まれた平屋作りののどかな佇まいだ。母屋にはご両親が住んでいる。

2、家族構成

ご主人と3人の息子さんの5人家族である。

家を建てたときは小さかった子どもたちも、今では長男は社会人、次男は大学生、三男は高校三年生と大きく成長している。

3、住まい

子どもの成長と共に子供部屋を増築、お風呂も大きく、トイレも素敵なものにリフォームされている。

ところがキッチンだけはどうリフォームしたものが分からず、そのままになっているのが実情である。

4、困ったキッチン

困っているポイントの1つはキッチンがダイニングから隔離されていることだ。

このキッチンも子どもたちが小さい頃は危険防止として、また散らかっている物をダイニングから見せないためにと役に立ってきたのだが、成長した子どもたちとキッチンに立ちながらコミュニケーションするには不便である。もう一つのポイントは収納だ。オーダーメイドの収納は家電もぴったり納まり素敵だったのだが、子どもの成長と共にニーズは変化した。男の子の食べ盛りの頃には五合炊きだった炊飯器は一合炊きになった。また新しい家電を購入すると棚に収まらずはみ出してしまった。

また奥様がパン作り教室を始められたため、生徒の方々がキッチンに立たれることも多くなったが、その動線計画にも何かと支障を来している。

O様は色々困っているもののどうしたらよいか分からず悩んでおられた。

●〇様邸ダイニングルームから見たキッチン



●いろいろなものがはみ出した困ったキッチン



③O様が一目惚れしたキッチン

LIXIL 横浜港北ショールームでのお料理教室で最後にショールームツアーがあった際、そこにO様が一目惚れしたキッチンがあったのだ。ショールームの一番いい場所に陣取ったキッチンはアイランド型のセラミックトップの新製品である。色も形もすてきた。

コーディネーターとしては、「他のメーカーにもいいものがあるので、比べてみてはいかがでしょう？」とアドバイスしたが、「第一印象を大事にしているのがいいの！」ということで具体的なプランニングに進むことになった。キッチンパネルや取っ手のデザインも多種用意されている

④現場調査

ご自宅を現場調査（採寸、給排水の配管、床下の構造、電気配線、スイッチなどなどをチェック）

⑤集えるキッチン「4つのポイント」に照らし改善案をまとめる

1 空間づくり

キッチンとダイニングの間の壁を取り払い、対面式に変更
キッチンをアイランド式に変更して四方から囲めるように

2 機能

清掃性 レンジフード、カウンター素材などの清掃性確認
収納性 はみ出したものの置き場を確保しいつもきれいにして
おけるように
機能 パン教室を主宰する施主に設備機器などは十分な機能かを検討

3 動線

キッチンから続くサービスバルコニーを広くし、ガーデンダイニングとして使えるようご提案

玄関ホールからダイニングキッチンに入るところに扉を設置し、空気の流れと視線をコントロールすることをご提案

4 インテリア性

チーク無垢材で張られた床は傷だらけ→メンテナンス可能な無垢材の良さを活かしリペア

壁面・収納仕上げ材のシナベニヤは落書きや汚れ→張替

天井はなだらかな R 形状ホワイト塗装→意匠を活かし再塗装

重厚な家具たちは、いずれも 20 年近くの月日の経過によりついた汚れや傷をリペア

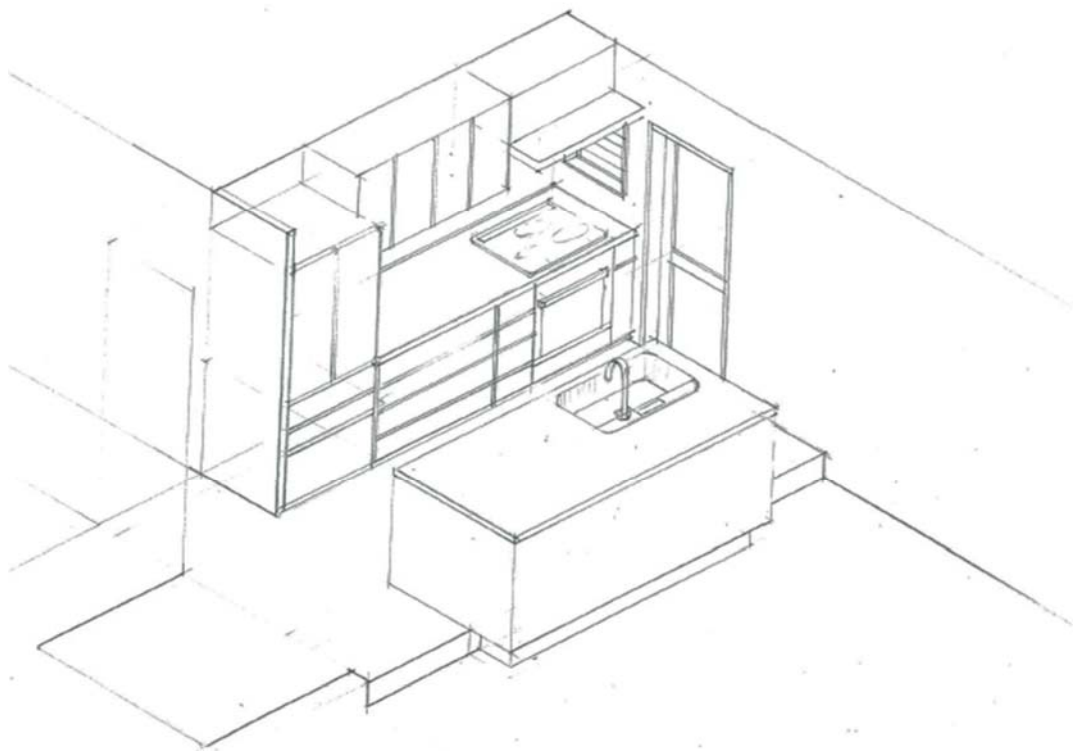
キッチン脇にはロールスクリーンまたはシェードをご提案

○ 様が一目ぼれされたリクシルキッチンを取り入れ、既存の素材の良さを活かしながら ○ 様らしいキッチン・ダイニング空間に！

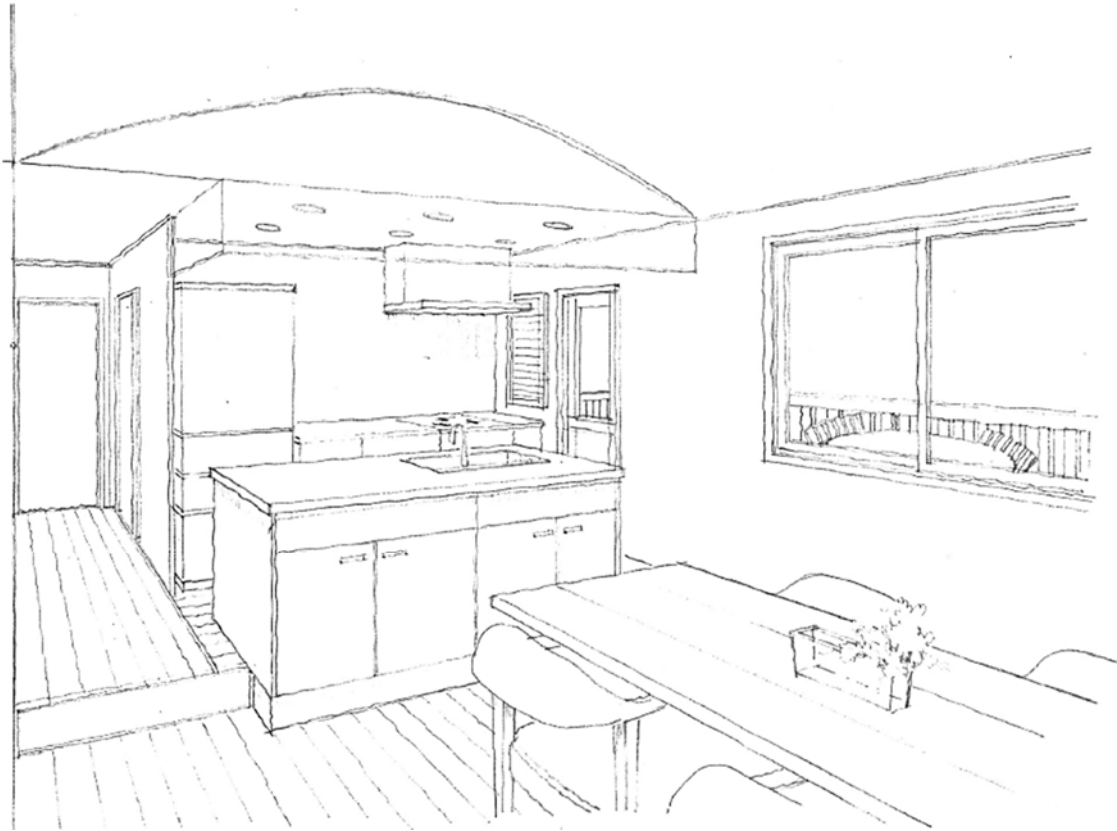
⑥現場とプランのすり合わせ

- ・ 現状の壁面を撤去するのに構造的な問題はないか？
- ・ キッチンとダイニングの間にある 150mm の段差をいかにクリアするか？

段差框の下に土台、基礎が通っていて、アイランドキッチンがその框をまたがるレイアウトになる。給排水をどちら側に通すか、排気効率や動線効率など大工さんと話し合いながらコンロ、オーブンの位置、シンクの位置収納容量などを決定し、ベストレイアウトに近づけていく。



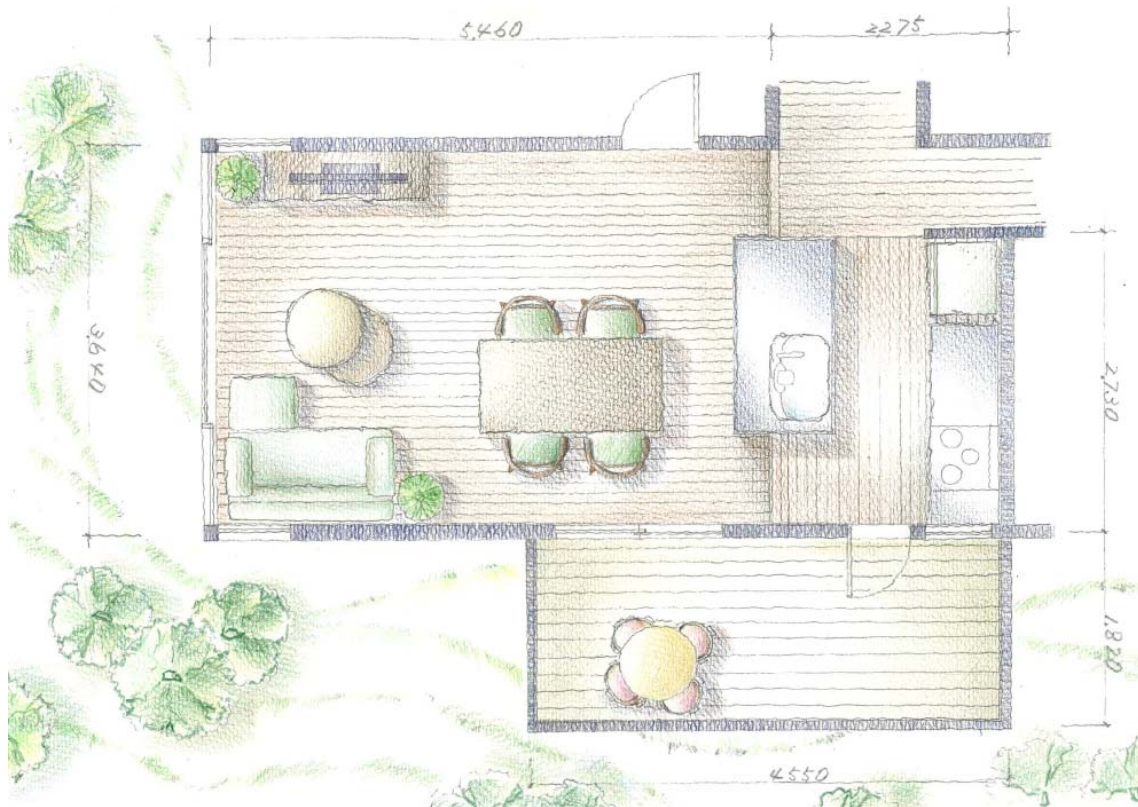
打ち合わせ用スケッチ



提案プランから作図したパース



プレゼン 着彩パース・平面図



さいわい O 様はこのプランをととても気に入られ、この春施工の運びとなっている。

息子さんのガールフレンドと O 様が仲良くパーティの準備をしたり、新しい仲間が増えて行ったりする光景が目浮かぶようだ。

さわやかな緑の中、オープンエアーでの食事やティータイムは日常の暮らしをより豊かなものにするだろう

「人が集う」キッチン・ダイニング空間が、O 様の今後の生活、人生を豊かに変えていくことを確信してまとめとしたい。

7.まとめ

今回の調査・研究では、消費者のライフスタイルや食空間に何を求めるかというところに重点をおき、エンドユーザーアンケート調査とメーカーヒアリングを軸にキッチン、ダイニング、アウトドアへのつながりも含めた食空間を提案することを目的に調査を行った。その課程でユーザーアンケート調査、ショールーム見学会に参加いただいたO様がリフォームを希望されており、ショールーム見学で見たキッチンをとても気に入られた為、お話ををうかがってご自宅のキッチンをプランニングすることとなった。

アンケート調査によると、エンドユーザーは働く女性が増え、働き方が多様化する中でも料理、「食」を大切にして「食」を通じて家族が集まってコミュニケーションをとりたいと思っていて、人が集い交流していくことでより充実した豊かな生活を送りたいと希望している。

各キッチンメーカーは共通して、キッチン・ダイニング空間の役割が広がり重要な生活の中心地であると考え、キッチンとダイニング、そしてリビングと続く家全体との連続性や関係性を重要視して「更なる豊かな生活」の提案をしている。

リフォーム提案のためのヒアリングの中で、O様は「みんなで集えるスペースを作りたい、みんなの顔の見える所でお料理を並べ、ダイニングテーブルを囲んでいるみんなの顔が笑顔に変わるのを見たい。」とおっしゃっている。

キッチン、「食空間」は人と人をつなぐコミュニケーションの場であり、キッチン、ダイニング、リビング、アウトドア、家の外との関係までつながっていく生活の中心になってきており、これをよりよくすることによって生活も心もより豊かになり生活の場を広げることができる空間となってきた。

この調査・研究で、私達インテリアコーディネーターはエンドユーザーがキッチン、「食空間」をとおして家族や多くの人とのつながりを求めていることを意識して臨まなければならないと感じた。またキッチンメーカーが、キッチン・ダイニング空間の商品提案に際し、「新しい暮らし方」「生活の更なる豊かさ」を意欲的に提案していることも忘れてはならない。

今後のキッチン・「食」空間の提案に生かし、人が集う、豊かな充実した空間を提案していきたい。

神奈川インテリアコーディネーター協会について

神奈川インテリアコーディネーター協会（通称 KICA）はインテリアコーディネーター有資格者である「IC 会員」と企業会員である「賛助会員」により構成されています。



年間を通し、会員のスキルアップや相互交流の機会として、勉強会、セミナー、イベントなどの活動を行っています。賛助会員にはそういった当協会の活動にご参加・ご支援をいただいております。

協会概要

- ◆設立 平成 14 年 5 月 13 日
- ◆目的 神奈川及び近県のインテリアコーディネーター資格取得者を主体とし「住まい」に関する知識及び経験の交流と活用を通じて生活文化の向上を目指します。神奈川県内のインテリア産業の活性化と生活者に対してより質の高い、美しいインテリアを提供することを目的と致します。
- ◆特色 インテリア関連企業を賛助会員に迎え意見交換をし、新商品の知識をより早く導入できる態勢をとっております。

アクセス

神奈川インテリアコーディネーター協会の事務局は横浜市都筑区に所在しています。

横浜市営地下鉄「中川」駅より徒歩 2 分、緑に囲まれた住宅展示場ハウスクエア横浜内にある住まいの情報館 3 階です。また 3F のライブラリーには協会メンバーによる「カタログ・サンプルコーナー（ラボ）」が常設されています。

KICA フェスティバル

年に一度の最大イベントとして毎年、KICA フェスティバルを開催しています。赤レンガ倉庫や山手の西洋館など横浜らしい場所をお借りしてのコーディネート展示、一般の方々へ向けてセミナーやワークショップを通してインテリアの楽しさを発信しています。



神奈川県横浜市都筑区中川1丁目4番1号
〒224-0001

ハウスクエア横浜 3階

<http://www.kanagawa-ica.gr.jp/>